

「学生による授業評価」のまとめ 2012 年度春学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 岡地 稔

2012 年度春学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2012 年 7 月 2 日～7 月 23 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 591 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 18 個あります。ただし、実際の授業評価用紙(マークシート)には 21 番までの番号が印刷されています。これは、JABEE(日本技術者教育認定機構)申請委員会が指定する科目用に追加されたものです。

設問 1 から設問 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う内容です。設問 4 から設問 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問になっています。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2012 年 7 月 2 日～7 月 23 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2012 年 8 月初) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2012 年 8 月～9 月) → 教員からの報告書提出(2012 年 8 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2012 年 9 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2012 年度春学期」

の発行（2012年12月）

2 集計結果の概要

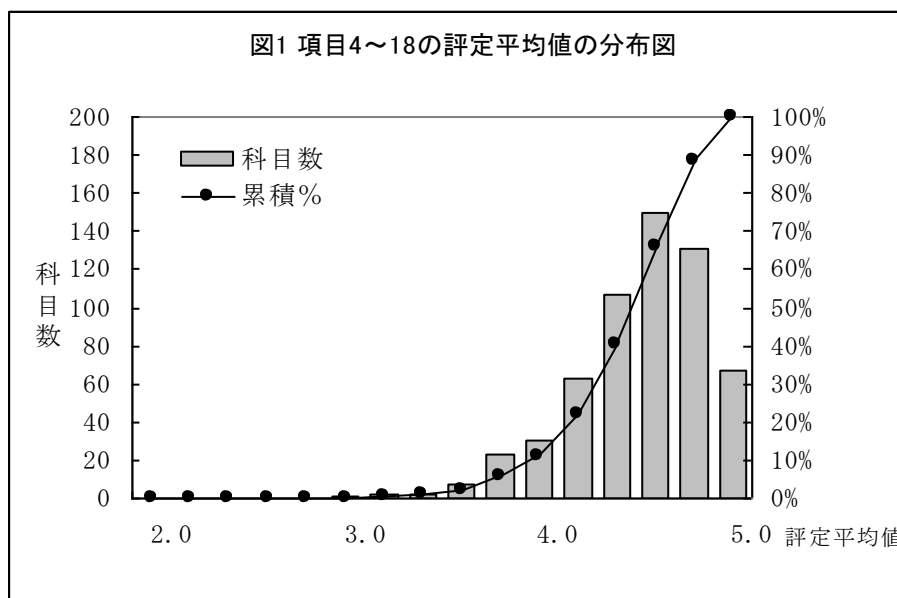
結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.66% (589/591 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.57% (465/467 科目)、瀬戸 100% (124/124 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 100% (611/611 科目) でした。名古屋 100% (483/483 科目)、瀬戸 100% (128/128 科目) でした。(評価対象科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が4名以下の科目は、学生による授業評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数が、①で示した科目数にプラスされています。)

③ **評定平均値** 設問1から設問3までの学生の授業参加を問う項目と設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、2種類の平均値を算出しています。電算処理が行われた583科目(回答数が4名以下の6科目は、電算処理を行っていません)の設問1から設問18までの項目全体の平均値は、4.28でした。また、受講生の授業参加姿勢に関する項目を除いた設問4から設問18の平均値は4.35でした。この平均値について分布の様子を図1に示しました。

電算処理実施科目のうちの約90%の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.0を超えており(4.0以下が11.15%)、さらに約80%の科目が4.2を超えています(4.2以下が21.96%)。一方、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目は1件(0.17%)ありました。当該科目の授業担当者には、授業改善方策の検討を別途お願いしました。



以下、すべての設問について評定平均値の分布の様子を図 2-1 から図 2-18 に示しました。

図 2-1 授業への出席

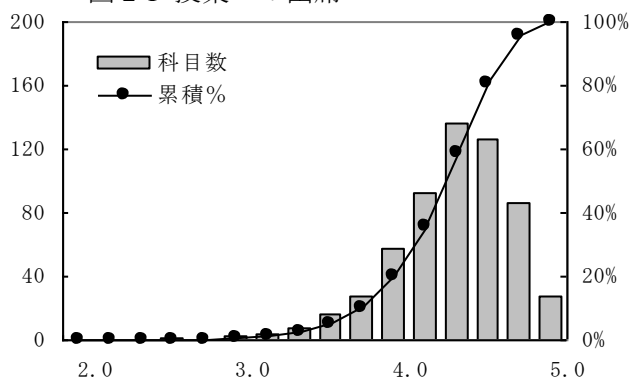


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

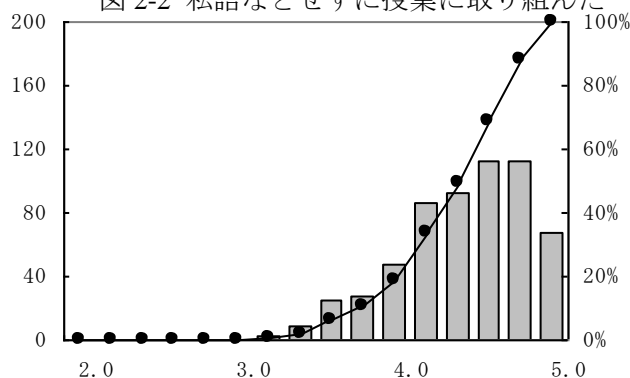


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

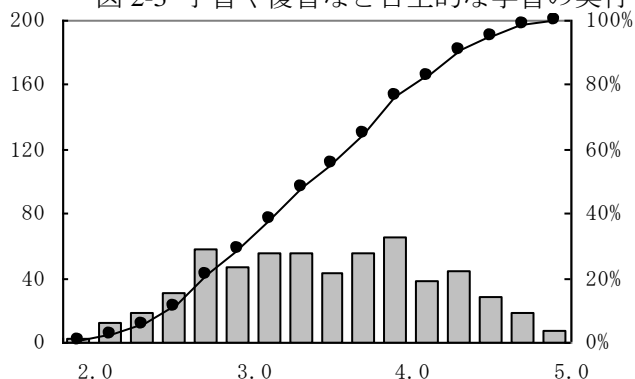


図 2-4 授業時間の厳守

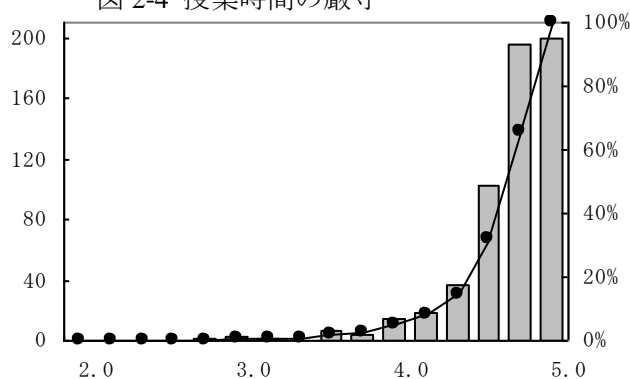


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

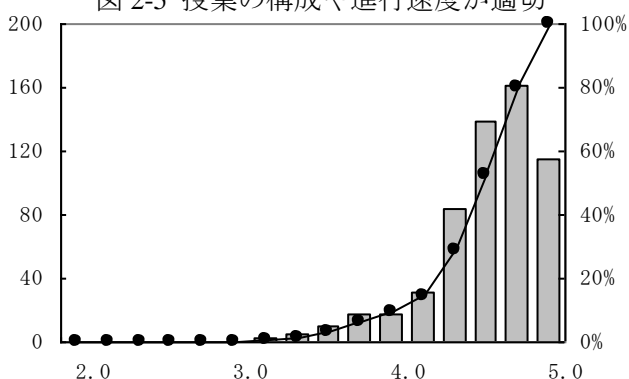


図 2-6 学修目標の明示

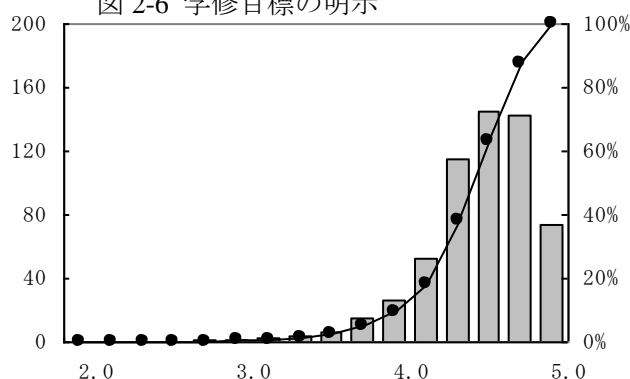


図 2-7 シラバスの有用性

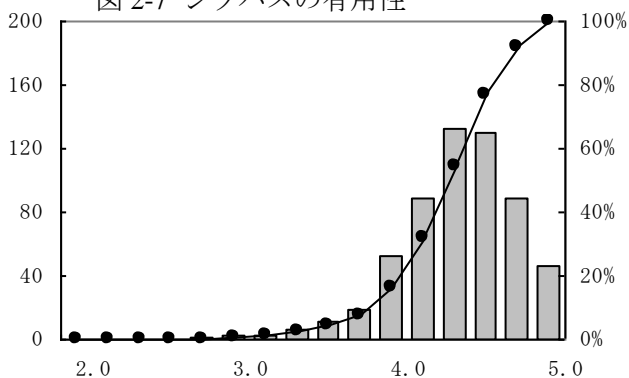


図 2-8 教員の声

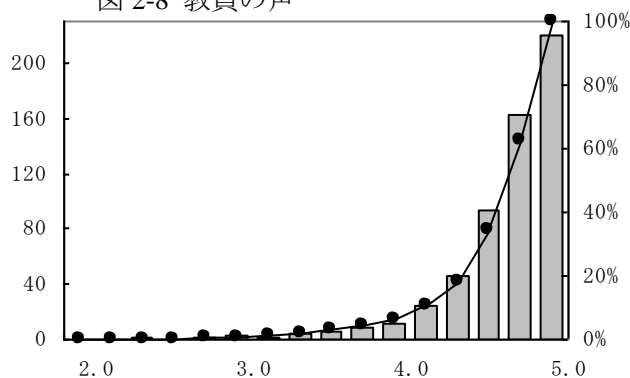


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

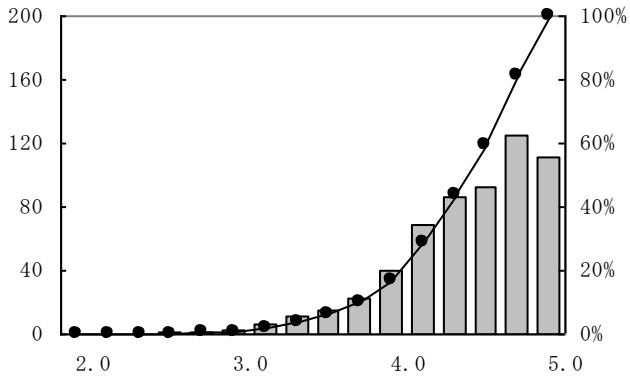


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

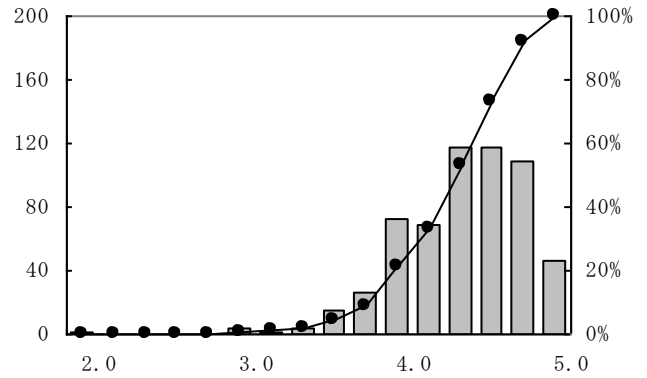


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

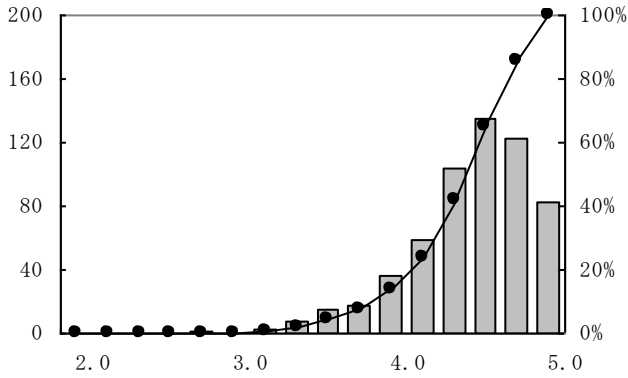


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

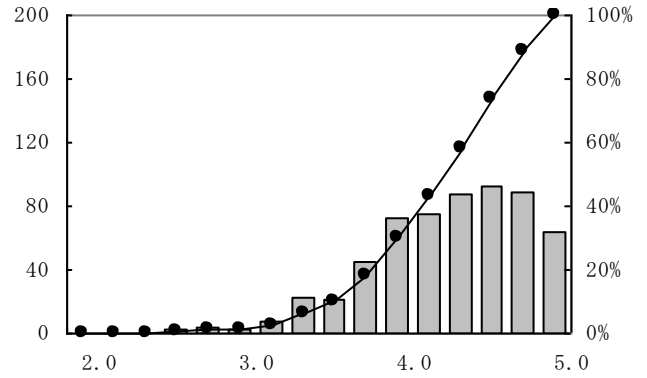


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

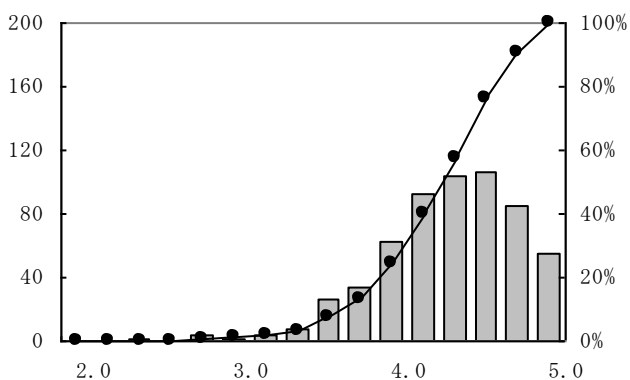


図 2-14 質問や相談の機会

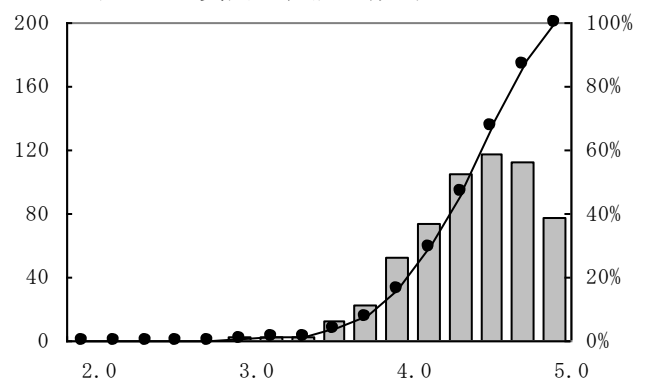


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

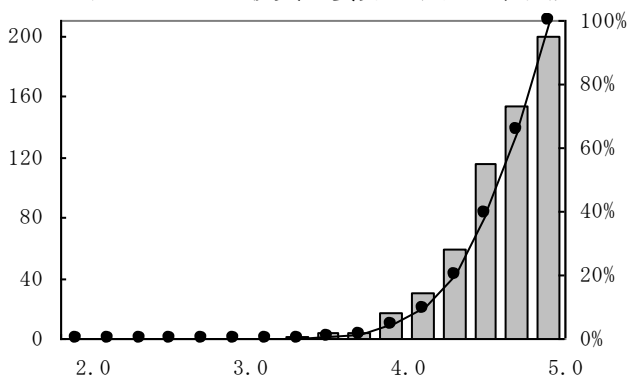


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

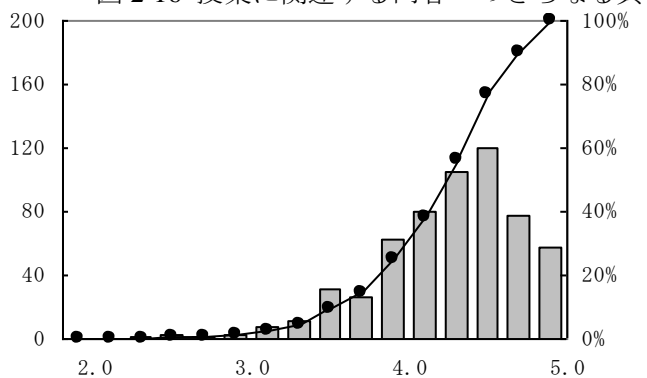


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

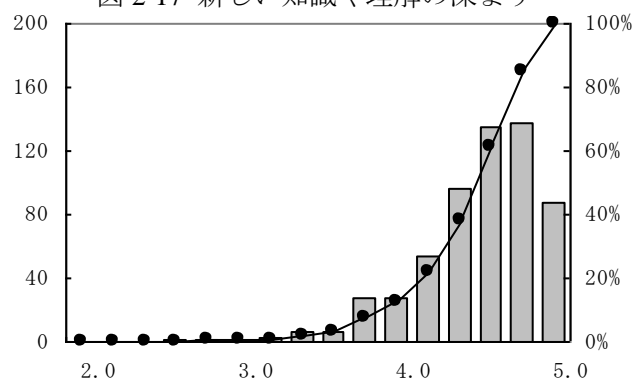
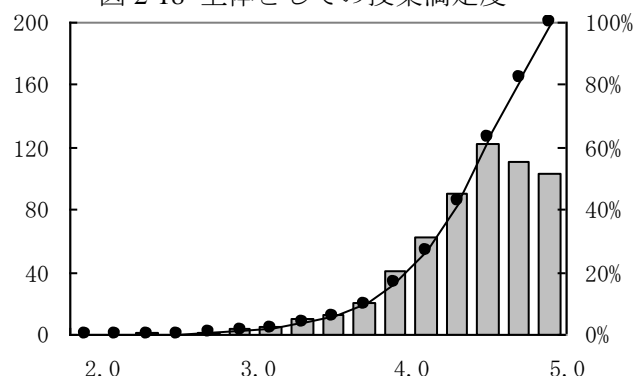


図 2-18 全体としての授業満足度



大学全体の評定平均値がきわめて高い設問は、設問 4（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）の 4.62、設問 8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）と設問 15（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）の 4.57 でした。これら 3 項目は、設問項目を現行の内容にした 2006 年度春学期以来、一貫して高い評定値を維持しています。とくに注目したいのは、担当教員の授業への取り組み姿勢を問う設問 15 が、2006 年春学期以来平均して 4.52 の評定値を、2009 年春学期以降で見ると平均 4.55 の評定値を示していることです。南山大学で教える教員の、授業への真摯な取り組み姿勢が窺えます。

設問 18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視する項目であり、「学生による授業評価」が始まって以来一貫して設定してきました。今回の評定平均値は 4.32 であり、80% 以上の科目が 4.0 を超え（4.0 以下が 16.30%）、さらに 70% 以上の科目が 4.2 を超えています（4.2 以下が 26.93%）。他方で 3.0 未満の評価を受けている科目が 4 科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われれます。

その他の設問項目のうち、設問 5（毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか）と設問 6（授業の学修目標ははっきりと示されていましたか）の評定平均値は、それぞれ 4.46、4.40 と、上述の設問 4・8・15 に次ぐ高い値を示しています。これらに比べると設問 12（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか）と設問 13（自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか）は、評定平均値がそれぞれ 4.13、4.18 と、やや低く、設問 4～18 の中で最も低い値を示しています。これらの点も、2006 年度春学期以来見られる傾向です。

設問 4 から設問 18 の評定平均値は、設問 12 の 4.13 から、設問 4 の

4.62まで、いずれも4.1を上回っており、今回の調査でもあらためて、教員の授業運営や授業全体に関して、学生からしかるべく評価されていることが示されている、といえます。

3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18の設問で評価を求めるようになったのが2006年度春学期からです。以下に紙幅の都合上最近9期分の評定値を表にして示します。

表1 項目4から18の評定平均値(2008春～2012春)

年度・学期	2008 春	2008 秋	2009 春	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春
全 体	4.18	4.26	4.27	4.25	4.28	4.36	4.32	4.39	4.35
名古屋	4.21	4.3	4.3	4.31	4.33	4.39	4.35	4.43	4.37
瀬 戸	4.08	4.14	4.17	4.07	4.13	4.24	4.18	4.3	4.29

表2 18項目ごとの評定平均値(2008春～2012春)

設問項目	2008	2008	2009	2009	2010	2010	2011	2011	2012
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
1 授業への出席	4.3	4.13	4.31	4.17	4.3	4.19	4.3	4.17	4.29
2 授業への取り組み	4.11	4.1	4.19	4.08	4.16	4.14	4.17	4.20	4.21
3 自主的な学習の実行	2.88	2.91	2.99	2.97	3	3.02	3.1	3.17	3.19
4 授業時間の厳守	4.55	4.51	4.58	4.47	4.6	4.6	4.61	4.60	4.62
5 構成や速度が適切	4.31	4.35	4.4	4.35	4.41	4.47	4.45	4.48	4.46
6 学習目標の明示	4.25	4.32	4.34	4.32	4.34	4.41	4.37	4.45	4.40
7 シラバスの有用性	4.11	4.21	4.22	4.22	4.24	4.3	4.27	4.37	4.31
8 教員の声	4.48	4.45	4.53	4.51	4.55	4.6	4.55	4.60	4.57
9 理解度への配慮	4.1	4.21	4.2	4.21	4.22	4.33	4.26	4.35	4.30
10 妨げ行為への対処	4.11	4.16	4.15	4.13	4.18	4.26	4.23	4.29	4.24
11 板書、配布資料	4.14	4.23	4.23	4.23	4.24	4.33	4.29	4.36	4.33
12 意欲を引き出す工夫	3.9	4.02	4	4.03	4.03	4.13	4.07	4.19	4.13
13 自主的学習の指導	3.94	4.05	4.04	4.06	4.07	4.17	4.1	4.23	4.18
14 質問や相談の機会	4.06	4.16	4.16	4.18	4.21	4.29	4.25	4.34	4.30
15 教員の姿勢	4.48	4.52	4.53	4.49	4.54	4.58	4.55	4.61	4.57
16 内容へのさらなる興味	4	4.1	4.09	4.09	4.1	4.19	4.13	4.25	4.19
17 知識・理解の深まり	4.21	4.3	4.3	4.28	4.31	4.37	4.33	4.42	4.37
18 全体としての満足度	4.11	4.23	4.23	4.23	4.24	4.32	4.26	4.37	4.32

表 1 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4～18 の平均値を学期ごとに示したものです。全体の評定平均値は、既述のように 4.35 となりました。これは 2011 年度秋学期の 4.39、2010 年度秋学期の 4.36 に次ぐ値です。キャンパスごとの数値で見ても、名古屋キャンパスでの 4.37 は、2011 年度秋学期、2010 年度秋学期に次ぐ値であり、瀬戸キャンパスの 4.29 は 2011 年度秋学期に次ぐ値です。

単期ごとの評定平均値を見た場合、2009 年度をのぞき、春学期には低い数値を示し、秋学期には高い数値となる傾向があり（この傾向は 2006 年度から見られます）、こうした上下動を繰り返しつつ全体として数値が上がっていく様子、即ち年々評価が高くなっている様子が窺われます。2011 年度秋学期にこれまでの最高値 4.39 となり、過去の傾向どおり、今回 2012 年度春学期の数値はそれより若干下がってはいますが、春学期としては過去最高値となっており、南山大学における授業改善が怠ることなく進められていると評価できるように思われます。

表 2 は、9 期分の 18 設問ごとの評定平均値を示したものです。

学生の授業参加について問う設問 1～3 のうち、設問 1（授業にはきちんと出席しましたか）の評定値は 4.1～4.3 の間を推移し、設問 2（私語や「内職」（授業以外のこと）などせず、授業に取り組みましたか）の評定値は 4.1～4.2 の間を推移しています。これに対して、設問 3（予習や復習など、自主的な学習を行いましたか）の評定値 3.19 は、設問自体では過去最高値ですが、9 期全体では 2.8～3.1 の、比較的低い数値の間を推移しています。ところで上述のように、設問 4～18 の中で最も低い評定平均値を示す設問は、教員に学生の意欲を引き出す工夫や積極的な授業参加を促す工夫を問う設問 12（評定平均値 4.13）であり、設問 12 の平均値が設問 4～18 の中で最も低い数値であることは 9 期全体にわたって見られます。

設問 3 と設問 12 の数値のこうした推移から、前回 2011 年度秋学期の授業評価のまとめに寄せて、「学生の側にも教員とともに自らが授業を作り上げていくという意識をもって授業にあたる姿勢が望まれるように思われます」と述べましたが、あらためて教員・学生の双方が授業を作り上げていく姿勢が望まれることを指摘します。

教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4～18 については、2011 年度秋学期に各数値が、設問 4 をのぞいて、過去最高の数値、ないしはそれと同じ数値となりました。今回の数値は設問 4 を除いて、すべ

てそれらを下回りましたが、設問 4～18 全体の評定平均値の項目で述べましたように、春学期～秋学期で上下動を繰り返しつつ全体として数値が上がっていく様子は、各項目それぞれについてもあてはまります。上で、設問 4～18 全体の評定平均値の推移から、南山大学における授業改善が怠ることなく進められていると評価できる、と述べましたが、特定の項目が突出して全体の平均値を上げているのではなく、各項目が全体でこれを押し上げているのであり、前回指摘したことを繰り返すこととなりますが、教員の授業改善の努力が着実に進められており、学生がそれをきちんと評価していることが読み取れると思われれます。

4 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1～3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

5 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。

これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。